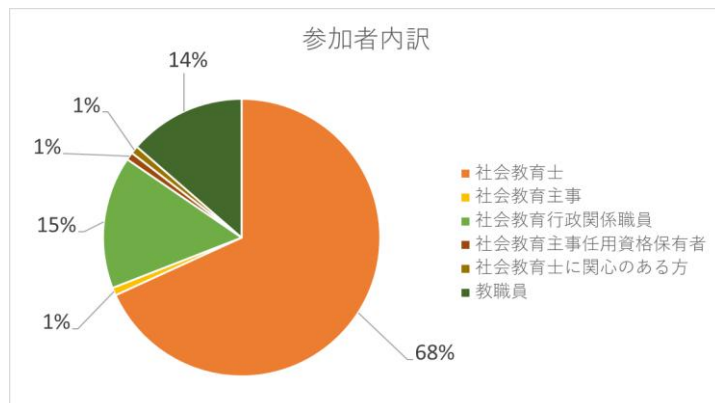


「社会教育士の学びを深める会～応援し合えるつながりづくり～」

事業の内容

- 1 日時 令和8年3月20日（金）
13：00～16：00
- 2 場所 対面：かでの2・7 820会議室
オンライン：Web 会議システム zoom
- 3 参加者 83名

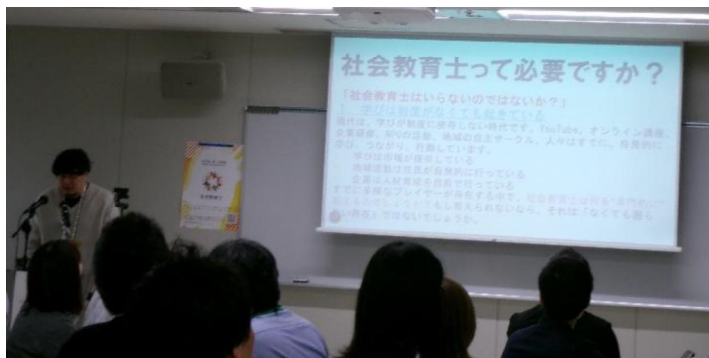


I プログラム

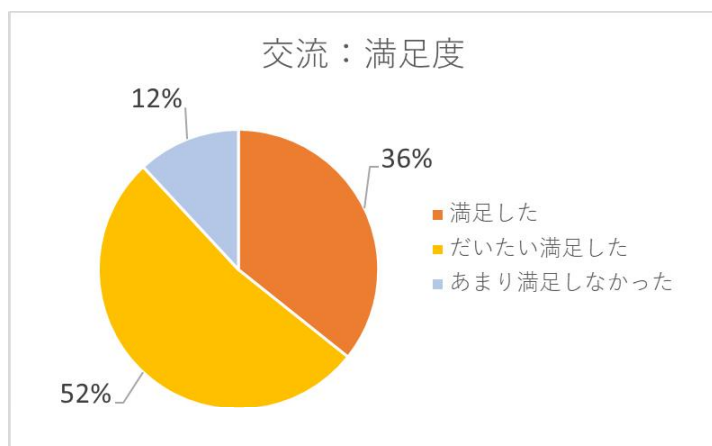
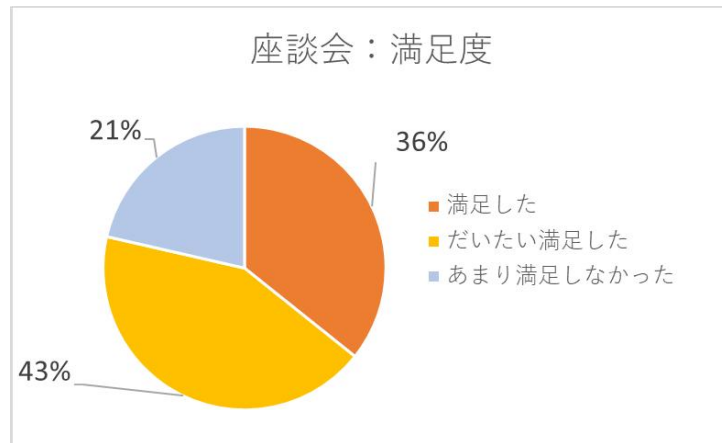
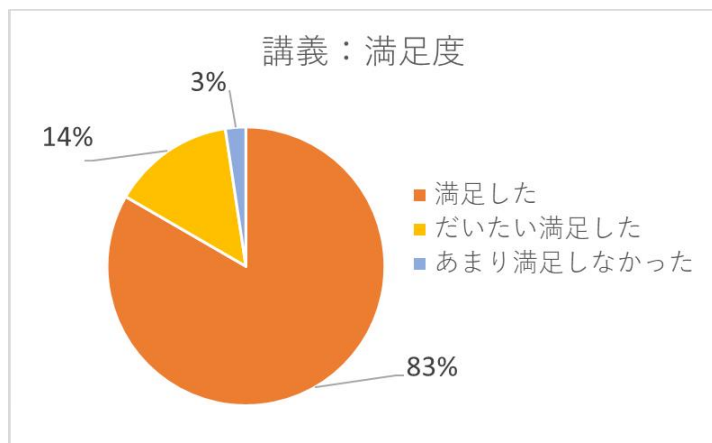
12:30 13:00 14:00 15:00 16:00

受付	第1部：講義 「社会教育士は必要か」	第2部：座談会 「かゆいところはどこ？」	第3部：交流 「自分の強み発見会」	閉会
----	-----------------------	-------------------------	----------------------	----

【講義】 「社会教育士は必要か？」	【内容】 AI 社会と言われるこれからの時代、人間に必要なのは「悩む」「モヤッとすること」だとし、その「モヤッと」を拾い上げ、他者を巻き込みながら考える場を作っていくことこそが「教育」であり、それを促すのが社会教育士の役割であると説いた。
【講師】 北海道大学大学院教育推進機構 講師 佐々木 直人 氏	
【座談会】 「かゆいところはどこ？」	【内容】 民間社会教育士グループと、教育・行政社会教育士グループに分け、それぞれのグループでトークを行った。登壇者の自己紹介や活動、講義で使用したワークシートをもとに話を広げ、コーディネーターとやりとりをし、社会教育士として感じていることを発表した。
【コーディネーター】 北海道大学大学院教育推進機構 講師 佐々木 直人 氏 北海道立生涯学習推進センター 主査 森 健太郎	
【交流】 「自分の強み発見会」	【内容】 社会教育に関する様々な分野が書かれた模造紙やホワイトボードを使い、その分野に対して「自分が社会教育士として何ができるか」「どう関わるか」を付箋に書き、貼りながら交流した。



Ⅱ アンケート結果



Ⅲ 参加者からの声

- ・社会教育士の存在意義を「不要論」から問い直す視点に大きな学びがありました。制度や職域の隙間で生じる悩みやジレンマは、個人の問題ではなく構造的課題であり、だからこそ人と領域をつなぐ役割の価値が際立つと実感したところです。
- ・とても有意義な研修をありがとうございました。「社会教育士不要」という衝撃的なお題から深掘りし、「なくなったら困る存在になるには」ということを考え、自分の強みを発見していくワークは、これから自分がどのように仕事に取り組んでいくかを考えることができ、とても有意義な学びとなりました。
- ・佐々木講師の切り口が、非常におもしろく、本質をとらえなおすことができたように思います。個人ワークやグループワークも十分にあり、研修が身になったように思います。
- ・交流会で、多様な社会教育の場面を想像しました。自分が力を注ぎたいところも興味を深めていきたいのと、同じくらい見えてなかったところ、どうアプローチできるかというような勉強ができました。

Ⅴ 担当者からひとこと

3時間があっという間の時間でした。「社会教育士は必要か？」という社会教育士不要論から考える社会教育士の在り方について、自分にとっても大変刺激的なお話となりました。全国各地からたくさんの社会教育士の方々とお会いすることができ、そして社会教育士としての機能を考える時間を共有することができ、とても有意義な時間となりました。皆様のさらなるご活躍を期待しています！